

モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は66%、
現存数は10.5であり、準絶滅危
惧に相当する。



♂. 三好町黒笹, 1992年6月14日, 安藤 尚 撮影

【形態】

小型のイトトンボで、♂は黄
緑色の体色で黒斑がある。♀は
未熟な間は鮮やかなオレンジ色
であるが、成熟すると緑色に変
わり、腹部背面に黒条が現れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の平地から山地にかけての 31
市町村で記録されている。

【国内の分布】

北海道南部から九州南部にかけて記録され
ている。

【世界の分布】

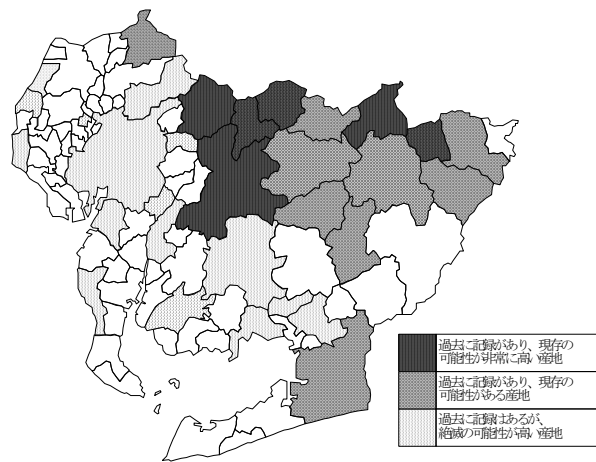
朝鮮半島、中国、ロシアに分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、湿原や休耕田など低い植生のある浅くて開放的な水域で見られる。未熟成虫は、水域からほとんど移動しないようで、成熟成虫と入り混じって見られることが多い。幼虫は、成虫の見られる水域で植物などにつかまっているのが観察される。

成虫は6月頃から羽化し、成熟成虫は7月頃まで見られる。年1化である。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

かつては県下の平野から山間にかけて広く分布していたが、平野の産地はほぼ消滅し、確実に現存するのは丘陵から山間を中心とした一部の地域だけになった。三河地方山間部の調査は最近あまり行われておらず、詳しい生息状況が把握できていない。

本種の好む浅くて開放的な湿地は、特に人口密度の高い平野部周辺では埋め立てられることが多い上、近年顕著な夏の猛暑により湿地が干上がることも影響し、絶滅しているものと考えられる。東海市では2016年に新産地が発見されたが、2018年初めに埋め立てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

- 1) 幼虫の生息地である湿原や休耕田の保存
- 2) 成虫の活動の場となる生息地周辺の草地の維持

【特記事項】

和名はイギリスのトンボ研究者ケネス・モートン氏に由来する。

(吉田雅澄)